

あなたにできること、きっとある。

もっと知りたい、里親のこと

こどもを迎え入れるまでの4ステップ

ステップ1 相談
児童相談所や里親支援センター等の支援機関に相談すると、里親の条件や手続きなどが説明されます。

ステップ2 研修・家庭訪問
児童養護施設や乳児院などでの実習を含む数日間の研修と、家庭環境の調査を受けます。

ステップ3 登録
都道府県等の審査を経て、里親として登録されます。

ステップ4 交流
面会や数時間の外出、宿泊などで、こどもと一緒に過ごします。

こどもを家庭に迎え入れます

養育に必要な費用が支給されます

こどもを育てるために必要な生活費、教育費、医療費などが支給されるので、安心して養育できます。

里親手当 1人あたり **9万円/月** ※養育里親の場合。

＋

生活費 乳児 約6万8千円/月 乳児以外 約5万9千円/月
※その他、教育費や医療費、防災対策費なども支給されます。

里親 Q&A

Q 特別な資格が必要なの？
A 特別な資格は必要ありません。所定の研修を受け、こどもの養育が可能な住環境があるなどの要件等が求められます。保護を必要とするこどもに寄り添い、豊かな愛情と正しい理解をもって接することが大切です。

Q 共働きでも大丈夫？
A 基本的に問題ありません。共働きの里親がたくさん活動されています。こどもを養育するために、仕事の調整や対応が必要なこともあります。

Q 実子がいても里親になれる？
A なれます。実子や家族に里親になることを伝え、理解を得たうえで、新しい家族として迎え入れるのが理想です。実子の年齢や性別を考慮して、こどもの委託が決定されます。

里親制度について知りたい
ウェブサイト 広げよう「里親」の輪
https://satooyanowa.cfa.go.jp

里親になりたい お近くの児童相談所にお問い合わせください。
児童相談所
【相談専用ダイヤル】0120-189783

こども家庭庁 里親制度
全国 里親会
日本ファミリーホーム協議会
児童相談所一覧

世界名作劇場
赤毛のアン

なにげない毎日が、こどもを育む

「いつか」を「いま」に。



© NIPPON ANIMATION CO., LTD. "Anne of Green Gables" ™AGGLA

あたたかな家庭を心から願ったアンは、マシュウとマリラに出会い、二人の愛情に包まれながら、自分らしく豊かで幸せな人生を歩みます。

あたりまえすぎて、見落としそうになるけれど、1日を通して交わされる家族の挨拶は、こどもの成長につながっています。
1日のはじまりを喜び、無事を願って帰りを待ちわびる。
そんなごく普通の毎日を積み重ねて、こどもは自己肯定感を養い、人との信頼関係を築いていきます。
いま、日本には親と離れて暮らすこどもたちが、約4万2千人います。「里親制度」は、そうしたこどもを自分の家庭に迎え入れ、
必要な生活費や養育に関する相談など、さまざまなサポートを受けながらチームで育てる制度です。
こどもの成長には、なにげない毎日を通じて安心と信頼を紡ぎながら、自分をしっかりと見つめ、応援してくれる存在が必要です。
こどもたちの力になれるのは、あなたです。

里親制度について知りたい
里親制度について知りたい方は二次元コードでウェブサイトへ
～里親制度の疑問に答えています～
ウェブサイト 広げよう「里親」の輪
https://satooyanowa.cfa.go.jp

里親になりたい お近くの児童相談所にお問い合わせください。
児童相談所
【相談専用ダイヤル】0120-189783
【インターネット】 全国児童相談所一覧 検索

里親についてもっと詳しく知りたい人は こども家庭庁 里親制度 検索 / 全国里親会 検索 / 日本ファミリーホーム協議会 検索

こどもまんなか
こども家庭庁

10月は里親月間です





里親Story（ストーリー）

日本には、さまざまな理由により親と暮らすことができないこどもたちが約4万2千人います。
こどもたちの心のケアと健やかな成長には、家庭に迎え入れられ、
自分が愛されていると実感できることが大切です。
こどもが置かれた状況に一つとして同じケースはないからこそ、
里親にまつわる物語も十人十色です。





Case1

「うちの仲間にならない？」寂しかった心に、里親の言葉が響いた

小賀坂小春さん



生後まもないころから過ごしていた乳児院で、齋藤直巨（なおみ）さん（※以下、なおさん）、竜（りょう）さん夫婦と出会いました。「もし仲間になってもいいなと思ったら教えてね！」。3歳の小春さんは「わたし、仲間になる！」と決めました。

2人の姉も受け入れてくれ、うれしい反面、不安も。「こんなに楽しい家族の中に自分がいてもいいのかな、本当に愛してくれているのかな」

愛情を試すような言動を繰り返し、小学4年生のときに家出をします。「習い事に行くときに持たせてもらった“もしものとき”用のお金を使い果たし、なおさんに叱られたんです。許してもらえたのですが、『本当に許してもらえたのか？』って。姉とのケンカもあり、家出してしまいました」

友達の家を訪ねたところを保護され、「『あんた、どこ行ってたの！？』と涙を流して叱るなおさんから、姉たちも心配して探していたと聞き、ものすごく反省しました。家出をきっかけに、自分はこんなに大切にされているんだなと思い、家族を試すような言動も減っていったと思います」

数年前に、実親と面会しました。「実家族は仲も良く、どうして自分は一緒にいられなかったんだろうとモヤモヤしましたが、『モヤモヤもネガティブな気持ちも全部小春の大事な気持ちだから、そのままでいいんだよ』となおさんたちは受け入れてくれました。家族って血のつながりではないんですよね。自分が安心できる場所に信頼できる仲間がいる、それが家族なんだと思います」

こがさか・こはる／2006年生まれ、東京都在住。生まれてすぐ乳児院に預けられ、3歳から里親家庭で育つ。2021年に実親と対面し、実名で活動する許可を得る。現在、里親家庭で暮らす委託児童や実子を支援する一般社団法人グローハッピーが主催する「こども会議」のこども委員、ファシリテーターを務める。

Case2

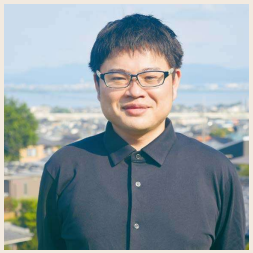
里親家庭の「実子」から「里親」へ大切なのはひとりひとりに向き合うこと

元藤 透さん

障害者福祉の仕事に従事している両親のもと、5人きょうだいの末っ子として生まれました。両親はいつも困難な状況の方々を支援していて、家族以外のこどもが家に滞在していることが自然な環境で育ちました。とはいえ、思春期のころには「なぜここまで、体を酷使してまで尽くすのだろう」と反発を覚えることもありました。

考えが大きく変わったのは、ある男の子と出会ってからです。一時保護されていたその子は人を寄せ付けず、うつろな目をしていました。母が抱っこしようとしても、逃げるように後ずさりで……。心の傷を感じさせるその姿に「この子には幸せになって欲しい」と強く感じました。

我が家にやってきたその子に、両親は特別なことをしたわけではありません。温かいごはんを一緒に食べ、泣いたら抱っこして温かい言葉を。こどもが意見を言うときは、尊重する。みるみるうちに笑顔が増え、甘えるようになったその姿に「こんなに尊いことはない」と、里親を志すようになりました。いまは実子から里親の立場になり、こどもたちと暮らしています。心がけているのは、ひとりひとりの何げない表情や言葉を丁寧に見て向き合い、いま何を感じているのかを知ろうとすることです。いま、里親になることを考えている人のなかには実子がいる人も、将来実子が生まれる人もいると思いますが、こどもの気持ちを大切にするということは、実の子だろうと血のつながらない子だろうと、変わらず大事なことなのではないかと思います。



もとふじ・とおる／1988年生まれ。ファミリーホーム（※）「元藤ホーム」養育者。里親家庭の実子として育つ。2012年に自身も養育里親として登録。
※里親家庭を大きくした事業。里親や乳児院・児童養護施設職員経験者の自宅等で補助者も雇い、より多くのこどもを養育する

Case3

キャリアをあきらめず里親に。職場が認めてくれた「育児休暇」

三武洋子さん・鉄也さん



2023年に当時2歳だった女の子を養育里親として迎える際に、勤務先の理解があり、「育児のための長期休暇」を8カ月間取得しました。

迎え入れるにあたり、仕事との両立という課題がありました。児童相談所の担当者に「愛着形成のために4カ月は密な時間を過ごしてほしい」とアドバイスされていたからです。勤務先には、血縁でなくとも養育するこどもがいれば育児休暇を取得できる独自制度がありましたが、対象は育児休業を延長した場合と同じ満2歳まででした。

仕事は楽しかったけれど一旦ここまでと心に決め、里親になるために退職する意向を上司に伝えたところ、思いがけない言葉が返ってきました。「すばらしい！　洋子さんらしい。お休みはどれくらい必要？」。退職するつもりでいたのに、気がつけば「こどもが3歳になるまでの8カ月間の休職」に。8カ月の育児休暇は、「こどもと家族になるための大切な時間」でした。夫と2人そろってこどもと向き合い、「なにして遊ぶと楽しいかな、おやつはどうしようかな」と一つひとつ考え、調べながら毎日を過ごしました。2024年5月に職場に戻り、翌年6月に1日6時間の時短勤務のまま、育児休暇前のポジションである「ストアマネージャー（店長）」になりました。上司から受け取ったメールは、今も大切にしています。

「女性も男性も関係なく、仕事と家庭、子育てが両立でき、心豊かな生活が送れる日本となることを心から願っています。里親として輝きながら活躍される洋子さんの存在、その一助になれば、心から嬉しく思います」

みたけ・ようこ／1978年生まれ。大手カフェチェーンに勤務。2023年4月に養育里親として女の子を迎え入れ、8カ月の育児休暇を取得。2024年5月に職場復帰し、育児と仕事の両立に奮闘中。
みたけ・てつや／1978年生まれ。大手外食チェーンに勤務。洋子さんとともに育児と仕事の両立に奮闘する日々。毎日の食事づくりは鉄也さんの担当。

Case4

短い時間でも、こどもにとっては宝物 佐藤浩市さん・亜矢子さん夫妻が続ける「フレンドホーム」というつながり方

佐藤浩市さん・亜矢子さん

乳児院や児童養護施設のこどもたちを週末や休み期間に預かる「フレンドホーム（東京都の制度の名称）」を、5年以上続けています。児童養護施設のこどもたちとふれあうボランティアをやっていた亜矢子さんが、自宅に引きこもりがちの女の子がいると知ったことがきっかけでした。「家庭で過ごすことで、少しでも元気になってもらえたら」

女の子は、なかなか普通の声で話すことができませんでしたが、じっくり向き合い、見守ることにしました。「あいさつもできるようになって。笑顔が見られたときには、喜びを感じましたね」（浩市さん）

料理をしたり、花を生けたり。休日を一緒に過ごした後は、施設へ送り届けます。「お別れするまでの30分間、車中での時間を彼女がとても大事に感じていてくれるというのが伝わってきて、僕もその空気感が好きで。教えてもらったことがいっぱいあったなあと振り返って」（浩市さん）

「週末だけ、お休みのときだけでも、家庭生活を送ることはこどもの未来に変化を起こすと思います。里親制度をぜひ知ってほしいです」（亜矢子さん）

「責任はあるから、背伸びは必要なんです。でも、ずっと背伸びしていたら相手も疲れてしまいますよね。あるとき背伸びをやめてかかとを落としたら、背伸びしていたときと見える景色が同じだったんです。僕がこどもと関われたからなんだと思っています」（浩市さん）



さとう・こういち／1960年、東京都生まれ。19歳で俳優デビュー。日本アカデミー賞最優秀主演男優賞をはじめ、数々の賞を受賞。
さとう・あやこ／舞台女優として活動後、1993年に結婚。2014年より児童養護施設のこどもを支えるボランティアを始める。

里親が育てる。社会が支える。
フォスタリングマークは、里親普及のためのシンボルマークです。

フォスタリングマークについて
里親制度を広めるとともに、里親家庭を社会で支えるための支援の輪が広がることを願って作られたシンボルマークです。

ウェブサイト公開中！

ウェブサイト 広げよう「里親」の輪
https://satooyanowa.cfa.go.jp